

■ ドスケベパラダイス@ナミ

あらゆる娯楽と快樂が集う島。

謎の熱気に包まれた常夏の島では淫らな行為の全てが遊戯として許される。

一度入ったが最後、いかに理性の強い者だろうと興奮と愉悅に吞まれ、二度と元の生活に戻れなくなる。そんな悪夢の樂園が、世界のどこかにあるという——

「もうっ……ここは一体なんなのよ……！」

ロビンと共に出かけていたナミだったが、

不自然すぎる唐突な災害によって全く見知らぬ島に漂流していた。

すぐに島から出ようとするが、突如噴き出した桃色の蒸気を浴びた途端、急激な発情に襲われてしま
う！

「きゃっ！ 何これ、間欠泉？ いえ、これ……」

どくんっ♥

「あ……んくううっ♥ まさかこれ、興奮作用が……あああつ♥」

(何よこれ♥ 一晩中クスリ漬けにでもされたみたい……♥

こんなとこにいたらすぐおかしくなる……早く出なきゃ♥)

蒸気には興奮を促す物質でも含まれていたのか、媚薬を使い続けたかのように全身が発熱。

経験豊富なナミですら困惑を隠せず、なおさら早く離島しなければと岸に向かう。

幸いにも小型船や高性能のボートが売られていたが……

「百万コイン？ コインって何よ？」

【あー、もしかしてお姉さん、ここに来たばかり？ ここじゃ何買うにもコインがないとねー。もしコインがないなら……あ、ちょっと！】

「悪いけど急いでるの！ 後で返すから……あれ、動かない？」

【だからコインがなきゃダメなんだって。見かけによらず強引だなあ……もしかして海賊かな？】

船は独自の通貨で売られており、購入不可能。

となれば海賊らしく強引に奪おうとするが、そもそも船はコインを投入しなければ動かないという奇妙な仕組みになっているため動かさない。

「……つまり、この島から出るには、コインを稼がなきゃならないってわけね」

【そうそう。この島のゲームでね！】

この島でのゲームは、参加することでコインがもらえ、結果に応じて追加報酬がもらえるという仕組みらしい。

今は海浴いということで、ナミを知った少年たちに『海戦ごっこ』をしつこくねだられている。

参加者は一人用の小さな小舟に乗り、先にゴールに着くか最後まで残ることで勝利となるシンプルなゲーム。

ただ、ナミを待つ少年たちの目と手つきはいかにも怪しく、桃色の蒸気で発情した今は警戒せざるを得ない。

【えー？ いいじゃん、お姉さんこういうの好きそうだし】

【そーそー、お金貯まるまでボクらと遊ぼうよー♪】

【遊んでお金貯まるんだから悪い話じゃないじゃん？】

「でもコインってのがこの島でしか使えないんでしょ……？ なら、いくら稼いでも……」

(色仕掛けで盗む……にも、今の私じゃ、逆にやり込まれるかも……！ それに……そういうゲームなら、まだ勝ち目はあるし……)

葉漬けにされたと感じるほど発情した今の状態では、いつものように色仕掛けで騙し取ろうにも逆に事態を悪化させかねない。

力尽くでの手段も同様だが……ゲームに参加すれば確実に一定額はもらえる上、勝利すれば一気に高額のコインが稼げる。

眺め向きにもナミ向けなゲームとあり……渋々ながら参加することに。

「あーもう何なのよ、この気持ち悪い島は……！ 仕方がないわね……やってやるわよ！」

【やったー！】

【じゃ暇なやつらも呼んでくるね！ 参加者もっと増やさないと！】

「えっ？ ちょっと、それじゃ不利になるじゃない！」

【でも、その方がもらえるコイン増えるよ！】

【だいじょーぶだいじょーぶ、ボクらは参加せず応援するだけだから♪】

「応援って……」

「……ここはまず、私が出るわ」

不穏な空気になる中、ロビンが前に出る。

ゲームに関して情報がない今、下手に二人が同時に出るよりもロビンで様子見し、二戦目をナミに任せた方が確実にだと判断したのだろう。

ただ、合理的なものだけでなく、ナミを庇うためというのも理由の一つだろうが。

（確かに今、ヤバい状態だけど……ロビンだって濡れてるじゃない……！）

一見冷静に見える彼女も、やはり桃色の蒸気——少年たち曰く《淫気》によって発情しており、タイトスカートでは隠し切れないほど太股が濡れている。

そんな危うい状態でも、様子見の捨て駒になろうというロビンの意思を尊重し、ナミは一戦目をロビンに託す。

【あ、ちなみにこの辺は淫気のせいであ……えーと悪魔の実だっけ、何かの能力が弱まるらしいけど、問題ないよね♪】

「……！ ええ、問題ないわ……早く始めましょう！」

_____……

_____……………

もみもみもみもみっ♡ ぐちゅぐちゅっ♡ ビュルルルウウツ♡♡

「あひ♡♡ あへっ♡♡ お♡♡ おおほおお~~~~~♡♡♡」

淫気のせいでも能力が弱まり、実質的に使用不可になっても気丈にゲームへ臨んだロビン。

しかし開始数分後、少年たちに四方八方から掴みかかれ、全身愛撫にあえなく陥落！

ドボンと媚薬プールに墮ち、更に罰ゲームを受け、とても三十路を過ぎた億越え海賊とは思えない滑稽な牝啼きを晒してしまう！

【あ〜ザンネン！ ロビンさんに賭けてたのにな〜！】

「やっぱり、これ完全に私らが不利じゃない！ ひ、卑怯よ、こんなの！」

【えー？ でもルールはちゃんと守ったし】

【嬉しいからイイじゃん♪ ハーレムだよハーレム♪】

【ほら、ロビンさんも愉しんでるし♪】

媚薬まみれになったロビン。確かに、表情はどこか楽しそうにも見えなくもないが……

（淫気とやらのせいに決まってるでしょ……♡ こんなのがなかったら、あんな……♡）

淫らかな微笑を浮かばせてしまっているのは、きっと淫気の影響のはず。
普段なら、あのロビンがこんな風になるはずがない。
心の中で言い訳すると、次はナミの番がやってくる。

「予想通り、基本はシンプルなゲームね。海戦なら負けはしないわ……！」

ロビンの犠牲(?)を無駄にしないためにも、航海士としてのプライドのためにも、
ナミは気合を入れるが……開始直後、一戦目では使われなかった水鉄砲で媚薬をかけられ、
落ちてきてきた身体がまた一気に発情させられる！

「いくわよ……覚悟しなさいっ！」

びちやあっ♥

「きゃあっ♥♥ な、何してんのよっ♥♥ しかも、これ……♥♥ 胸が……あああっ♥♥」

【ごめんごめん、援護射撃のつもりなんだけどさー♪】

【狙いが悪くて……今度はちゃんと敵を撃つから♪】

びしゃびしゃっ♥ びゅびゅうっ♥

「し、白々しいのよ……やめなさい卑怯者♥♥ こんな聞いてないわ♥♥ ちょっ、どこ狙って……♥♥」

【へへ、隙ありっ♪】

がしっ♥ もみっ♥ ぎゅむんっ♥

「この、ガキンちょ♥ 触らないで……あ♥♥ ああああっ♥♥」

応援するだけと言っていた少年たちによる『援護射撃』により、ナミの計画は一瞬で頓挫。
胸や股間に水鉄砲が撃たれると思わず震えるほど感じさせられ、海戦どころか立つだけで精一杯。
すぐに少年たちに囲まれ、大振りの胸が水着の上から、震える下半身もジーンズの上から触れられてしまふ。

【あれ、お姉さんってもしかして痴漢されて悦ぶタイプ？】
もみもみもみもみっ♥ ぎゅっむ♥ ぶるんっ♥ ばちいんっ♥
「んなワケないでしょ♥♥ こんなので、悦ぶ、とかああっ♥♥
ち、違うから、これはっ♥♥ これは……んんんんんんっ♥♥」

否定しても説得力は全くなかった。

ジーンズの上から尻や秘部を揉まれて喘ぎ、それどころか太股や膝裏でさえ指が這うだけで痙攣してしまう。

淫気力は凄まじく、普段は感じないような部分も性感帯として機能している。

念入りに露出を抑えるためジーンズを穿いていたが、逆に中が淫気でムレてしまい、より多くの淫気を下半身から吸っていた。

逸早く過敏になった足腰が触られてガクガクと震え……

【ほらほら、ちゃんと抵抗しないと媚薬プールに落ちちゃうよ〜♪】
がっし♥ ずりゅ♥ ぐちゅうんっ♥
「抵抗って……あんたらが、私の手……掴んでるんでしょがっ♥ あ♥♥ も……やめ…………♥♥」
ドボンッ♥♥

「っっあ♥♥♥ ああああああああっ♥♥♥」
(このプールもヤバいっ♥♥♥ 淫気と同じくらいのが……全身にいいっ♥♥♥
まさか、こんな小さな子たちの前で……イッちゃう、なんて……っ♥♥♥)

両手両足が掴まれて抵抗らしい抵抗もできず、呆気なくプールにドボン。

噴き出す淫気にも劣らない威力の快感が全身を襲い、痴漢に焦らされた身体は水中で絶頂に至ってしまう。

これでナミはゲームに敗北してしまったが……このゲームはある意味、落下してからが本番。

船から落下したプレイヤーは罰ゲームを受けるのだが、その内容は「女性の場合、落下前に触った男たち全員とのセックス」という滅茶苦茶なもの。

権利を得た痴漢少年たちは興奮して近付き、じりじりと詰め寄る。

無理矢理にというよりは、抑えられない衝動を打ち明け、合意が得られるまで辛抱強く粘るという感じだ。

(やば……い♥♥ このままじゃ……ロビンみたいに……♥♥)

【ほらほら、逃げない逃げない♪】

「や……は、離しな、さい……♥」

【ちゃんとスキン付けるからさ！】

【罰ゲームでもイッパツごとに報酬出るし……いいよねっ♪】

びきんっ♥ びきびきいっ♥

「……………っっ♥♥」

(何なのよこいつら……ガキのクセに、何でこんなに……っ♥♥)

見事な逸物が突き付けられ、牝として一瞬惹きつけられてしまう。

形だけなら立派なレイプ、輪姦と言える状況。

だが少年たちは最低限の理性があるのか、行儀よく避妊具を付け……押さえつけるのもポーズだけで、強く抵抗すればすぐに離してくれる。

あくまで形式だけだが、了承されるまでしつこくせがんでいるだけ。

にじり寄り、猛った部分を見せつつ手を握り、褒めて煽ってを繰り返す。

悪くない容姿を持つ少年たちの妙な人懐こさが「ほんの少しなら」「コインのためなら」と断りづらい空気を作る上、時間をかければ淫気の催淫効果が回り……気付けば結果的に、断れない状況に陥っている。

(こんなの……♥♥ 拒めるわけじゃない……♥♥)

力強い肉竿を見て生唾を飲み、一瞬、拒絶の意思が緩む。

そこを見通したように、一人の少年が密着。

強引に、しかし優しく左腕を回し、ジーンズの中に右手を入れる。

「やめな……さい……♥♥ それ以上……近付いたら……♥♥」

ぐちゅぐちゅっ♥ じゅかじゅかじゅかっ♥

「ああっ♥♥ あ♥♥ やめっああああんっ♥♥」

絶頂こそしないが、優しく激しい指使いにナミの細い身体が仰け反り、オレンジ色の長髪が揺れる。隙だらけになって腰と腰が更に近付くと、律儀にジーパンは穿かせたまま、少年が中の水着をズラシ…

…

【本気で嫌がってないってことは……そーゆーことだよね♪ じゃ、いくね……っ！】

「あ……♥♥ 待ちな……さい……♥♥」

（入っちゃう♥♥ こんな卑怯なガキどもに♥♥ なのに……♥♥）

ずぶ……ずばあんっ♥

「あああああああっ♥♥♥」

しっかりほぐされた肉壺に、今まで経験した中でも大きな肉剛が侵入。

一度具合を確認した後、問題ないと確信したのか少年は一気に根元まで突き入れ、おかげでナミは奥深くまで抉られて腰砕けになり、二度目の絶頂を晒しつつ反射的に少年に抱きついてしまう。

少年がナミの感触を褒める中、ナミも隙を見せまいと気丈さを保とうとするが、頭も身体も完全に肉欲に囚われている。

【超気持ち良いよ！ やっぱりナミさん最高っ！ ナミさんはどう？ ボクのチンポ気持ち良い？】

ぬぷっ♥ ぬっ♥ ずんっ♥ ずぬっ♥

「んはっ♥♥ き♥♥ 気持ち良い♥♥ わけ♥♥ ないでしょ♥♥

だまって♥♥ 早く……終わらせなさいよおっ♥♥」

【ケダモノみたいに黙々と突きまくるのがいいんだ？ やっぱ海賊ってそーゆーの好きなんだね♪】

ばちゅっ♡ ぱんっ♡ ばしゅっ♡ ばしゅんっ♡

「ちっ♡♡ 違うわよっバカあ♡♡ あ♡♡ 激しっ♡♡ ああああああ……っ♡♡」

【やば、ナミさんマンコ気持ち良すぎてガマンできな……出すよ！ スキン付けてるからいいよねっ！】

ぱんっ♡ ばちゅんっ♡ ずっぶ♡ ずぱんっ♡

「くひっ♡♡ やっ♡♡ 待っ……あ……っ♡♡」

ドプンッ♡♡ ビュビュビュビュウウウツ♡♡

「熱っつううっ♡♡♡ やだ♡♡♡ ダメ♡♡♡ あ……ああああ——っ♡♡♡」

年下の男に、いいようにされる屈辱から早く逃れたいがゆえの言葉だが、逆手に取られて激しくされ、その力強さに情けなく蕩けてしまう。

仲間が恥を晒したのに自分だけ免れていいのか。コインのために止むを得ず。避妊ケアをしているから。気持ち良すぎて逃げられなくても仕方ないから。

色々と理由を付け……形だけの迷いの後、避妊具越しの熱に子宮が戦慄き、その震えが喉奥にまで伝わり啼き声として漏れていく。

ナミの奔放なイメージとは違った、怖がるように雄に抱きつき、可愛さの残る官能の込められた嬌声を聞いて一人目が満足し、二人目も待ち切れずやって来た。

【うはっ、イクのめっちゃ可愛い♪ ナミさんてセクシーっっていうかヤリマンなイメージだったけど……思ったより上品なイキ方だね♪】

「う……♡♡ うる……さい……っ♡♡」

（コンドーム越しなのに……なんて威力なの♡♡ こ、こんなに熱くて激しいの、初めて……♡♡ もし直に出されたら……♡♡）

【あー、抱き合ってる所悪いけど、次ボクだからね！】

ずぶんっ♡ ぱんっ♡ ぱんっ♡ ぱんっ♡ ぱんっ♡

「ああっ♡♡ 少しは、休ませ、なさいよお♡♡

スキン、付けてる……からって♡♡ 調子に、んほっ♡♡」

【休んでる暇ないって！ ナミさんだってホントはガマンできないでしょ？ ほらほらっピストンだけ

でイカせてやるっ♪】

【痴漢好きみたいだから、おしりもイジめてあげないとね！】

がしっ♥ ぎゅちいいっ♥

「黙って終わらせろって、言ったでしょ♥♥ おほおっ♥♥ お尻♥♥ 揉まないでっ♥♥

一遍に、何人来て……♥♥ な、なに、こすりつけてんのよおお♥♥】

ナミの色香に少年たちが次々と理性を失い、三人、四人と群がってくる。
横からは手での行為を求めつつ尻を揉まれ、後ろからジーンズ尻の谷間にこすり付けられる。
前後から挟まれ、両手も性器として扱われ……気持ち悪いはずなのに、
本能は『優秀な雄に囲まれている』と判断して倒錯的な興奮が止まらない。

(何よ、これ♥♥ 身体が勝手に♥♥ 反応、してく……っ♥♥

無理矢理……牝にさせられてるっていうの？♥♥ あ……有り得ない……♥♥ 認め……ないんだから
……っ♥♥)

【興奮してるのバレバレだよ！ ほらイケっ！ イッチャえっ！】

ぱん♥ ぱんっ♥ ぱんっ♥ ぱあんっ♥

「ふっ♥♥ んっふ♥♥ 興奮、なんかっ♥♥ あっ♥♥ そこ……おおおっ♥♥】

(こいつら♥♥ レイプ魔の癖に♥♥ なんでこんなにねちっこく……♥♥)

【またイキそう？ マンコ震えてきたよ！】

「イク……わけ♥♥ ない、でしょっ♥♥ イキたいなら♥♥ ひとりで♥♥ 勝手にイキなさいよ♥♥

この、早漏……♥♥】

【まだそんな強がれるんだ？ 流石は女海賊っ……ならいいよ、思い切り出してやるから……っ！】

ぱんっ♥ ぱんっ♥ ぱんっぱんっぱんっぱんっ♥ じゅぱんっ♥ ぱちゅんっ♥

「♥♥ あっ♥♥ っく♥♥ この♥♥ そっ♥♥ 早ろっ♥♥ あ♥♥ あ——~~~~っ♥♥】

ドップ♥♥ ビュツツ♥♥ ビュグウウウツ♥♥

「っっう♥♥♥ あ♥♥♥ はあっ♥♥♥ あ♥♥♥ あ……っ♥♥♥ あ………っ♥♥♥】

(また……コンドーム越しに♥♥♥ 叩き付けられてる♥♥♥ 何で……こんな♥♥♥ 熱いのよお……♥♥♥)

【ふ——……ピストンだけじゃムリだったかー。でも中出しでイカせたぞ！ スキンなかったらもっと…
…うわ、全身べとべとじゃん！】

「うっさいわねえ……♥♥ あんだけ必死に、腰振っというて……♥♥」

ナミに放精したのは二人目の少年だけでなく、尻コキ、手コキで愉しんでいた少年たちもほぼ同時に性欲をブチ撒けていた。

淫技に自信があるナミは早く終わらせようと指を使い、腰も可能な範囲で動かした。

狙い通り早々に少年たちを射精させたが、数人分の精液を受け止めさせられ、結果的にナミが一方的に辱められている。

（それにしても、どいつもこいつも、なんて量なの♥♥ まさか……ぜ、全員この調子なの？♥）

まさか少年たちは全員が絶倫巨根なのか。戦慄するナミだが、意外にも早く少年たちは手を引く。

【ま、最初はこの辺にしとこか】

【んー、しょうがないかー】

「……え……？」

【あれ、ナミさんの的にはガッカリだった？】

【もしかしてゴムハメなら全然OK？】

びくっ♥

「……んなワケないでしょ、エロガキども……っ！ ほら、次のゲームよ！ 案内しなさい！

とっとと百万コイン集めなきゃなんないんだから！」

（何で……ちょっとガッカリしちゃってるのよ……♥ これも、淫気とクスリのせいに違いないわ……♥）

安堵しているはずなのに、不覚にも物足りなさを感じてしまう。

全てを淫気と媚薬に押し付けると、早くも次のゲームに意識を向ける。

【ま、でもその前に……】

——……

————……



【はい、ナミさんにも水着になってもらいましたー♪】

これも罰ゲームの一つ。

先に敗北して拉致されるように連れられたロビンは水着にされたらしく、ナミも水着になることを強制される。

常夏の島ではジーンズは動きにくく、薄着になるのは好都合。

少年たちに視姦されること、少年たちが用意した水着なのが若干不愉快だが……変な仕掛けをしていないだけまだマシか。

「デザインがシンプルすぎない？ ……まあ、たまにはこういうのもいいかしら」

【やべ、興奮してきた】

【さっき出してないからパンパンだよ……！】

【早くゲームしようよ！】

「焦んないの。まずロビンと合流しないと……」

【ロビンさんってあれ？】

少年の一人が指差す先はショップエリアのバー。

様々な男女が卑猥なオプションと共に飲食を愉しんでおり、その中にロビンの姿もあった。